

令和4年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会派名	公明党
事業名	SDGsの取り組みについて
事業区分	①研究研修 ②調査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

2 実施概要

実施日時	視察先	埼玉県入間市
令和4年10月20日(木) 10:00~11:30	担当部局	

報告内容・感想(まとめ)・市政に活かせること

1 町の概要

人口 21,806人

世帯数 11,089世帯

面積 200,98km²

県の南部に位置し、年間334万人が訪れる海と温泉のリゾート型観光地。

ここでしか見られない千畳敷など海の自然景観が魅力的。

2 町の特徴

サファリパークには8頭のパンダが暮らし、中国以外世界では、白浜町だけ。

高速道路(紀勢自動車道)、南紀白浜空港などの交通アクセスが整い、都会と程良い距離感を持っている。

小、中しかなく高校は近隣の市町へ進学。大学は関西圏、関東圏へ進学。高校卒業後の県外進学率30年間ワースト1。若者の県外流出が課題とのこと。

3 視察事項

・白浜町の企業誘致について

県外に転出した若者も含め、若者世代に帰ってきてもらう、あるいは来てもらう、移住してもらうには生活の基盤である雇用の創出が重要と捉え、IHS構想の拠点としての地域づくりを目指している。

※IHSとは豊かな自然環境と人材資源、恵まれた交通アクセスを活用して、情報通信関連産業の集積を促進し、新技術、新産業が次々と生まれてくる創造的な地域を作っていく構想。

平成16年から企業誘致を開始。2社入居したが途中退室。平成26年まで全室空き室状態。

平成26年 県と連携して企業誘致を進めていくことになる。

平成27年 総務省のテレワーク事業に応募。全国37の応募の内15件に絞られ白浜町も入る。

NECソリューション インベータ(株)の

「白浜町におけるパブリッククラウドサービスを活用した先進的テレワーク推進および

生活直径サービス構築・検証事業」としてITビジネスオフィスとして注目されるようになり、企業の入居が始まり平成29年には6室満室となる。

平成30年には第2ITビジネスオフィスも県と連携を取り、ワーケーション専用のオフィスとし4室が満室となった。

白良浜周辺を一望できる絶景のロケーション。

○ 白浜町ITビジネスオフィスについて

元明治生命保養所を用地共に買い取る4,868万。改修事業費11,200万円。県補助金5,000万円。残りは起債。

若者の雇用機会の創出や町内消費活性化の契機とする。

賃貸価格 賃室料1,260円/㎡・月 倉庫料1,050円/㎡・月

床面積 業務室1室31~91㎡ 倉庫1室12~34㎡

6社の入居

4 感想・市政に活かせること

注目点

白浜町はネット環境が整っている。国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）との協定を結び、

災害時でも途切れないネットワークの構築。

空路は1日3便。白浜町へは5分足らず。陸路（高速道）の充実。観光スポットが多くある。

これらのことから企業誘致の条件が整っている。

日本人の7割が周りに迷惑かけたくない。仕事を辞めたくない。有給休暇を取れない。取りたくない。

だからこそ「働き方改革」の一環としてワーケーションは日本人に最適な働き方。テレワークを活用し、

仕事をしながら休暇を取る。

企業誘致したことにより地元雇用が社員の半分という企業（50名中25名）が実現している。

